

所沢税務署長賞

教科書のありがたさ

藤沢中学校 三年 山崎 麗

兄が春、大学生になり、

「教科書を買ってくる。」

売っていなかった教科書に対し、

「教科書代の振込用紙がきた。」

と母に伝えると

「教科書って高いわね、まともに買うとかなりの出費になるのね。」

とつぶやいていました。後で来た振込用紙の金額は決して安いとはいえず、教科書がこんなに高いことに驚きました。私は自分の使っている国語の教科書の値段がいくらなのか気になり調べたら、一、三五〇円で売られていました。自分で全ての教科書を購入したとして九年間で計算したと考えると、無償でもらえることはとてもありがたいことだと分かります。

私は、小学生、中学生と四月になれば当たり前のように教科書が配られるものだと思っていましたが、当たり前ではなかったのです。インターネットで調べると、無償化に至るまでには様々な歴史があり、教科書無償になるために尽力した人達がいたのだと分かりました。また、無料で配布されている制度は、次代を担う児童、生徒の国民的自覚を深め、我が国の繁栄と福祉に貢献してほしいという国

民全体の願いをこめて行われているものであると書かれていました。また、義務教育諸学校の児童生徒が使用する教科書が無償配布するための費用として一年間に四六〇億円が使われています。兄は大学生になりバイト始めたが、千円を稼ぐ大変さを痛感し教科書も親が一生懸命働いて出してくれた大切なお金で購入したもので、しっかり勉強して頑張ると宣言していました。私の教科書も皆が一生懸命働いて納めてくれた税金を使わせてもらっているのだから、感謝の気持ちと国の願いをしっかりと受け止め、教科書を大切に扱い勉強を頑張っていかなければと思いました。教科書の扱いもこれからは気をつけます。帰ってきて乱雑に置いていた教科書もきちんと並べて置きます。

今、私ができることは満足できる勉強環境にある中、怠ることなく勉強に励むことです。そして世の中に役立つ仕事に就き、国民の一人としてしっかりと税金を納めたいと思いました。税金を詳しく調べたら、個人ではできない方面で有意義に使われていたり、普段は気にもとめていなかった暮らしの一部にも税金がかかっていたことに驚きました。税金のことを勉強する機会があり、知識を得たことで、暮らしやすい日本をつくるために、税金を納める一員になるんだという意識を強くもつことができました。税金が日本のためにこれから人々にとって役立ち、有効に使われてほしいと思います。